

※ 評価の観点による実現状況の達成度判定基準は、A～Dの4段階の基準で評価したものである。

[A…よくあてはまる, B…あてはまる, C…あてはまらない, D…まったくあてはまらない]

※ 判定は、学期の業務遂行状況を教職員による学校評価アンケートや生徒・保護者アンケートの結果をA～Dの4段階の判定基準で評価したものである。また、その分析や改善結果・学校関係者評価について記載した。

「よくあてはまる」で評価
()内は「よくあてはまる」「あてはまる」
合わせたポイント

A…とても良好
B…良好(目標)
C…検討が必要
D…再検討・改善

Table with 10 columns: 重点, 経営ビジョン, 具体的な取組(重点項目), 質問紙NO., 評価の観点, 達成基準, 6月, 9月, 12月(現状), 結果分析・改善, 学校関係者評価, 次年度に向けて. It contains detailed evaluation data for two main categories: 'School Management Improvement' and 'Improving Learning Power'.

2	生きる力につながる学力をつける	自ら進んで学習する生徒の育成「知」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・家で勉強している生徒	⑧ 生徒	学んだことをふり返ったり(復習)次の授業の見通した勉強(予習)を家で行っている。	Aのみ A-60% B-50% C-40%	48(87)	48(86)	48(84)	【9月評価(Check)】 【評価・分析】 「よくあてはまる」と答えた生徒は86%だったが、「よくあてはまる」と答えた生徒は48%であり、目標には到達しなかった。家庭学習ノートの取組はしているが、授業に直結する予習復習を家庭学習で行うということが十分に定着していないのではないかと考えられる。保護者が45%と前回から34%下がったが、学校再開とともに家庭学習時間が減ったことが考えられる。	【(前期)】 家庭学習に対する保護者のアンケート結果が下がったのは、休校期間中に比べて感じていることだと思う。家で様子を見ていても課題を提出できればそれでいいだろうという程度の学習ぶりである。小学校でも家庭学習に対する項目はあるが、保護者が声をかけて行った学習は家庭学習の習慣化という点から違うと捉えているようである。小学校で中学校の定期テストの期間に合わせて家庭学習強化週間を設定している。 【(後期)】 中学校では授業につながる家庭学習をめざしているが、小学校ではどんな授業をするかで家庭学習の取り組みを充実させるように取り組んでいる。	【評価を終えて】 家庭学習については、前期と比較するとほぼ横ばいの数値となった。一方、保護者の肯定的な回答が40%も伸びた。生徒会活動における家庭学習の取組が影響していると考えられる。アンケート項目の「学んだことをふり返ったり(復習)次の授業を見通した勉強(予習)を自分で行うことが、様々な課題解決に必要な力であり、学びに向かう人間力につながるものと考えられる。今後もガリガリノート(自主学習ノート)の終了冊数に応じて段位認定し、励まし褒める機会を持っていく。また、学習内容の質の向上を図るために、学級担任だけでなく、教科担任からも学習方法を示していく。その他にも意欲、習慣を含めた学力に課題を抱える生徒にもきめ細かく指導していく。		
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ・ガリガリノート(家庭学習ノート)の書き方の指導、展示 ・ガリガリノート一冊終了ごとに段位認定 ・テスト前にガリガリタイム(全校生徒で学習する時間)を実施 ・テスト前にガリガリタイム(自主学習時間)の確保		⑥ 保護者	子どもは家庭学習の習慣がついている。	A+B A-85% B-75% C-65%	79%	45%	85%			【9月評価時点での成果と課題】 ガリガリノートの質も全体的に高まっていることが見てとれる。家庭学習を充実させることが学力向上にプラスに影響すると考え、今後の予測できない事態に備えることも含めて、生徒たちに自ら学ぶ力を育てていくことが課題となる。今後も、自主学習ノートの推進を進める一方で、具体的にどんな予習復習を行ったらよいか、家庭学習の方法を教えるなど個別の指導を行っていきたい。	【求める生徒像】 ・復習や次の日の予習に取り組む生徒
			1 2 教師		家庭学習の習慣化のための取組をしている。	A+B A-90% B-80% C-70%	91%	100%	90%	○目標・計画の再設定(Action) 授業改善を図り、生徒の学習意欲を高めて家庭学習につなげたり、さまざまな学習スキルを経験させたりする。また、キャリアパスポートを活用してキャリア教育を充実させ、将来に目を向けさせることで主体的に学習に取り組む態度を育てていく。また、家庭学習の取組は個人差が大きいので、個別に家庭学習の取組について助言したりして意欲を促していく。			【具体的な取組】 ・一人一人の学習到達状況を確認し、さらに意欲を引き出すための新たな取組	
3	豊かな心と健やかな体を育てる	互いの良さを認め合う生徒の育成「徳」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・互いの良い行いや長所を見つかることができる生徒	⑪ 生徒	友達の良い行いや長所を見つかることができる。	Aのみ A-65% B-50% C-35%	69(94)	57(100)	68(100)	【9月評価(Check)】 【評価・分析】 生徒、保護者、教師すべての観点で概ね高いポイントとなっており、家庭と学校双方から相乗的に働きかけがなされていると考えられる。「友達の良い行い」の項目に関しては、B判定であるが、「よくあてはまる」と答えた生徒の割合は、他の質問に比べてとても高く、「あてはまる」まで含めると100%となっている。	【(前期)】 「友達の良いところを見つかることができる」というのは素晴らしいことである。昔はこのように考えることすらなかった。学校としては少人数なのでこんな気持ちを持つてもらいたいと思って取り組んでいる。 【(後期)】 「友達に対して、思いやりの心で行動している」という項目があるが、生徒・保護者の結果が同じ値であることは意味があることである。昨年度、道徳の研究発表会を行った際の取り組みに比べれば意識の低下が見られるという教職員の反省の意味を含めた評価結果の数値であろう。	【評価を終えて】 「友達の良い行いや長所を見つかることができる」という項目は前期に比べ11%伸び目標を達成した。生徒同士が良いところを見つけて名前やその行為を書く「とりごえもの羽」が定着してきており、他の人の良い行いを見つけようとする生徒の意識が高くなってきている。内容も充実し、思いやりの形にも深まりがでてきた。しかし、全ての生徒が名前を書かれているわけではなく、自己肯定感の低い生徒にとっては書きづらいと考えられる。ただ、教師の道徳教育に対する意識の低下が見られるので、再度道徳教育の充実を図ってきたい。また、今後もテストの点数に限らず、人には忍耐力や意欲をはじめとした非認知能力など多様な能力を持ち合わせていることを指導したり、視点を変えてみるだけでも一人一人の良さに気づき、書き合えるような場を設定し、自尊感情を育てていきたい。		
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ・各学級に道徳コーナーを設置 ・道徳掲示の充実 ・生徒会主催で「とりごえもの羽」(友達の良い行いを伝え合うカード)の取組 ・各学級で行事の後などに、感謝の気持ちや良い行動を伝え合う		1 5 教師	互いの良いところを見つけ、伝え合うための指導を行っている。	A+B A-90% B-80% C-70%	82%	91%	100%			【9月評価時点での成果と課題】 生徒同士で良いところを見つけ発表し合う「とりごえもの羽」について、生徒の意識が高くなっていることが見て取れる。この活動を行うことによって、生徒の自己有用感を育て、他者への思いやりが自然と生まれるように進めていきたい。	【求める生徒像】 ・互いの良い行いや長所を見つかることができる生徒
			⑫ 生徒		友達に対して、思いやりの心で行動している。	A+B A-95% B-85% C-75%	90%	99%	97%	○目標・計画の再設定(Action) 「とりごえもの羽」の取組は浸透しているため、質の深まり・向上を重点的にやっていきたい。具体的なアイデアとしては、テーマを絞ったとりごえもの羽を月に一回のペースで行う等である。テーマを絞ることで、生徒に「思いやり」「積極性」などについて深く考える機会となればよい。テーマも、生活目標などと関連させることも考えられる。また、とりごえもの羽以外に、各学級での取組も行うことでさらに効果的になると考えられる。			【具体的な取組】 ・毎日の生活を通して教師による働きかけの推進 ・他者に対する思いやりの心を育てるための道徳授業の取組	
			⑨ 保護者		子どもは、友達に対して、思いやりの心で行動している。	A+B A-95% B-85% C-75%	96%	91%	96%					
			1 6 教師		道徳の授業を要とした道徳教育の工夫で、生徒に思いやりの心が育ってきている。	A+B A-95% B-85% C-75%	90%	84%	72%					
3	豊かな心と健やかな体を育てる	心と体を鍛える生徒の育成「体」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・きちんとあいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒	⑬ 生徒	どこでも誰に対しても自分からあいさつしている。	A+B A-95% B-85% C-75%	91%	94%	94%	【9月評価(Check)】 【評価・分析】 地域とのつながりが深いこともあり、「あいさつ」の項目については生徒、保護者ともに「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた割合が高かった。自律清掃に関する項目については6月の調査から「よくあてはまる」のみが8%下がる結果となった。	【(前期)】 挨拶も積極的に行っており、こちらのほうがされてびっくりするくらいである。	【評価を終えて】 挨拶に関する項目は生徒会執行部で取り組んできたこともあり、高い数値を示しており、廊下等で積極的に挨拶する様子が見られる。自律清掃については前期からの伸びは見られなかった。しかし、生徒の実態を見る限りでは黙々と取り組んでおり、嫌なことから逃げ出すような取組にはなっていない。今年度は授業時数確保に向けて掃除をカットすることも多かったことも影響していると考えられる。今後は高いレベルを求めすぎず、しっかりと掃除ができていないことを評価していきたい。		
			【2. 具体的な取組(Plan)】 ・生徒会執行部を中心としたあいさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・学級日誌への振り返りの記入と記入内容の全体への還元 ・生徒会委員会による横断的運動の立案実行		⑩ 保護者	子どもは学校や地域で元気にあいさつしている。	A+B A-90% B-80% C-70%	89%	88%	91%			【9月評価時点での成果と課題】 生徒会のあいさつ運動や育友会のあいさつ運動などが成果につながっている。自律清掃については「あてはまる」まで含めると89%と高い割合を示しているが、「よくあてはまる」の割合が下がっていることは、自律清掃への取組についての趣旨を再度確認する必要がある。	【求める生徒の姿】 ・大きな声、丁寧な所作であいさつしている生徒 ・自律清掃で自分の心を磨いている生徒
			1 8 教師		進んであいさつができるように指導している。	A+B A-90% B-80% C-70%	100%	100%	100%	○目標・計画の再設定(Action) 取り組みがマンネリ化してきているので、反省会の持ち方を工夫するなどして意識を高めていく。また、生徒会でゴミ拾い等、気付きに関する取組等を行い、清掃の質をさらに高めていきたい。			【具体的な取組】 ・生徒会執行部を中心としたあいさつ運動の実施 ・全校集会での自律清掃に関する共通理解 ・生徒のやる気を引き出す教師のサポートの推進	
			⑮ 生徒		自律清掃(無言、見つけ)を通し、自分の心を磨いていると感じる。	Aのみ A-65% B-50% C-35%	51(92)	43(89)	42(89)					
			2 9 教師		自律清掃(無言、見つけ)を通して心を磨く指導をしている。	A+B A-90% B-80% C-70%	100%	100%	91%					
3	ふるさとに誇りを持つ生徒の育成「家庭・地域連携」	【1. 達成された姿(ゴール)】 ・地域に誇りを持つ生徒	⑯ 生徒	地域に愛着や誇りを持っている。	Aのみ A-70% B-60% C-50%	65(93)	58(94)	59(89)	【9月評価(Check)】 【評価・分析】 生徒の「よくあてはまる」と答えた割合は下がったものの、「あてはまる」まで含めた割合は生徒、保護者、教職員の回答は高い評価であった。地域貢献活動は今年度なかなかできなかったが、学校生活において心理的安全性が保てられていることが考えられる。	【(前期)】 白山市が日本ジオパーク委員会からの世界ジオパークに推薦が決定したので、ジオパークを意識した取り組みを今後もしてほしい。 【(後期)】 小学校ではゲームにはまりすぎてトラブルになっていることがある。生活リズムを崩し、学校から足が遠のくケースもある。休校中の影響がでてきている。中学校でもゲームのトラブルはあるが、学校生活を見ていると深夜までしているということはない。現在、生徒会が中心となつて自分たちでゲーム等にはまってしまうような生活にしようという取り組みをしている。	【評価を終えて】 後期も地域を題材にした取組を行うことができず、「地域に愛着を持っている」と肯定的な回答をした生徒は前期と変わらなかった。各教科の学習においても地域を扱った教材を扱うことも愛郷心につながると考え、教育環境を整備する。また、次年度からの本格実施と新学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」がキーワードとなるため、地域との協働をより一層充実させていきたい。			
				○生徒に地域の良さを知らせ、地域に参画できる生徒の育成 ・白山麓の良さを知り、ジオパークの推進 ・道徳の授業の工夫(地域教材の活用、地域GTの活用) ・運動会、文化祭で地域の文化に触れる ・地域の行事への積極的参加	⑰ 保護者	子どもは、地域に愛着や誇りを持っている。	A+B A-80% B-70% C-60%	92%	92%			83%	【9月評価時点での成果と課題】 地域とのつながりが強い学校であり、家庭からの期待も高い。生徒の愛郷心をさらに高められるように、学校生活を充実させていく必要がある。また、行事や授業等でできるかぎり地域と連携した取組を行っていく。	【求める生徒像】 ・地域に誇りを持つ生徒
				2 1 教師	地域に愛着や誇りを持つように取り組んだ。	A+B A-90% B-80% C-70%	91%	92%	91%			○目標・計画の再設定(Action) 生徒の愛郷心をさらに高められるよう、地域の資源や人材を学校行事に活用する。また、活動の後は生徒に作文を書かせるなど振り返らせる機会を持つ。	【具体的な取組】 ・地域教材を発掘し、地域の方々との連携によるふるさと教育の推進 ・積極的な地域行事への参加	
